開会の辞

災害文化研究会世話人代表　山崎 友子

お忙しい時期にもかかわらず多くの皆様にお越しいただきました。基調講演の山川先生、現場からのメッセージを準備してくださった鈴木葛巻町長様をはじめとする登壇者の皆様には、快くお引き受けいただきました。本当にありがとうございます。参加者は、東北・九州・中国・関西と様々な所から様々なご専門の皆様がお集まりになりました。

非会員の参加者の方から、「無料とのことありがとうございます」とのコメントをいただきました。今回は、研究会会費の他に、高橋産業経済研究財団からの助成もいただいての開催となりました。財団のご支援により、本研究会副代表の初澤を研究代表として「災害文化の実態把握とその継承に関する実証的研究」を開始しました。被災後長期に亘り局面が様々に変化する中で被災地が困難に直面しておられることがわかっております。このような長期的でボトムアップの視点を持ち、研究会のオンライン読書会で取り上げた「災害ユートピア」をさらに深め、「分断」という新たな局面を考えていきたいと思っております。こうした本研究会の活動自体が「災害文化」の継承・醸成・伝播の一役を担うことになるかと思います。このような機会をいただきましたこと、財団に心より感謝申し上げます。

今回のテーマ「分断を超えるために」は、被災地から生まれたものですが、今世界中の課題となっています。本日、このように多様な皆様にお集まりいただいたこと、まず一歩を踏み出したことになるのではないかと思います。

トークセッションで取り上げられる『災害ユートピア』の著者 R. ソルニットは、イラク戦争が始まった時期に『暗闇の中の希望』という本を書いています。その中で、―希望とは「宝くじを手にソファにゆっくりと座った」気分や手にした宝くじのことではなく、「未来への扉に振り下ろす斧」のことである―と述べています。（実は、私は宝くじも買ったのですが）今日は、「暗闇」となった現在に決別するそのための知性・技術・パワー・スピリットといったものが希望であるという彼女の考えを頭に入れて、勉強したいと思っています。

どうぞ充実した時をお過ごしください。